

長く千葉大で勤務し、お互いを良く知る2人に管理職になった今感じていることを聞きました。

控えめ？ だけど潜在能力は高い事務職員

管理職から見る千葉大学の事務職員の特徴は何かですか？

伊藤…ポテンシャルの高さを表には出さない、控えめな方が多いと思います。依頼した内容以上の仕事ぶりに感心することも多く、個別に接してみると、年齢を問わず、企画力、分析力、実行力などに驚くことがあり、潜在を含め能力は高い方が多いと思っています。

宮近…控えめな方、多いですね。そして優しい方が多いと思います。また、コミュニケーションが取りやすいので、仕事しやすい環境だと思います。

それから、ワークライフバランスを大事にしている方が多いと思います。オンオフをうまく切り替えて、効率的に仕事をしているなど感じます。これは非常に良い事ですよ。

伊藤…はい、いろいろなライフイベントを控えている人にとっても安心して働くことができますね。

部下との認識のズレをなくす。やっぱりコミュニケーションは大切

管理職として意識していること、大切だと思っていることは何ですか？

伊藤…管理職になって特に意識しているのは、業務の関係者間で「認識の相違がないか？」です。認識の相違は無駄な作業が生じるだけでなく、学生支援などの場においては当事者にマイナスな影響を与えることもあります。



## Profile

宮近 一豊 Kazutoyo Miyachika

現職：総務部人事課長  
1989年入職。主に総務や人事の業務に従事。文部科学省など他機関への出向、学長秘書などを経て2018年松戸地区事務課長に就任。  
2021年より現職

まずは私自身が正確に理解することが肝要ですが、その情報が正確に相手に伝達できているかを確認しながら業務を進めています。

宮近…仕事の面で言うと、国の政策の動向や学内の動きなどの情報収集に努め、課内に正確に伝達・共有することを意識しています。おっしゃるとおり、部下に無駄な作業をさせないことが大事ですので、間違った指示を出さないように気を付けています。

宮近…あとは、仕事を任せるとの勇氣と失敗の許容ですね。自分でやった方が早いかなど思った仕事も、部下にとつていい経験になる仕事であれば任せるように意識しています。失敗してもいいので、経験を積ませることが大事だと思います。自分自身も若い時は失敗ばかりしていましたし、その経験が今に生きています。

伊藤…完璧な宮近さんから失敗したことをお聞きすると親近感がわきます(笑)。あとは、「顔を見て人と話す」ことも大事かなと思います。

前述の認識の相違についても、オンラインでもいいので、顔を見ながら話すことも微妙なずれに気が付くこともあり、また、話しの際の延長線に出た情報も、別の課題解決につながることもあります。でも、一番の効果は、相手のいろいろな状況がわかることです。

宮近…対面のコミュニケーションは大事ですよ。様々なコミュニケーションツールが溢れている世の中だからこそ、対面の大事さに気づかれます。そのためには、明るく、風通しのよい雰囲気作りが大切だと思っています。

伊藤…そのためにも、業務の進捗状況だけでなく、ひとりひとりの体調面や、業務上の得手、不得手など、皆さんの状態をこまめに知ることで組織全体の様子も見えてきます。

宮近…あたり前ですが、労働時間の管理は大切ですね。個々の業務量や体調面を把握することが、メンタルヘルス不調の予防にもつながると思います。

# 「成長したい」人、募集中



## Profile

伊藤 由香 Yoshika Ito

現職：学務部長  
1987年入職。総務や人事、学務、渉外など幅広い業務に従事。関東甲信越地区国立大学法人採用試験事務室長などを経て、2017年学務部留学生課長に就任。その後西千葉地区事務部人社系学務課長を経て2023年より現職

## 一流の教育者・研究者との日々のやりとりの中で

伊藤…少し話が脱線するかもしれませんが、先生方との打合せや世間話は、教育のプロから直接受ける授業の機会だと意識して行っています。専門知識はもちろんのこと、先生方との何気ない会話の中にも、論点の整理方法や、課題解決への促し方など学ぶことが随所にあります。

特に、管理職になってからは、価値観を押し付けず、相手の意欲を損なわないよう話される先生にお目にかかること、お手本だと思って聴き入ってしまい、会話が止まります・・・。

宮近…国立大学の教員と世間話ができるのは、大学職員の魅力の一つですよ。先生方は教育者であり、一流の研究者でもあるので、専門的な話をされるときは、同じく聴き入ってしまいます。役得ですね(笑)。我々事務職員とは違う視点からの貴重なご意見は常に勉強になります。

## 管理職も英語力が求められる

—管理職としてつらいとき、うれしいときは？

伊藤…自分の能力不足で申し訳ないと思うことはよくありますが、つらいと感じることはあまりないですね。

宮近…改めて聞かれると、ぱっと思いつくことはないですね。忘れやすい性格なので(笑)。

伊藤…ただ、自分がまったく現場の役に立てない時は申し訳なさすぎてつらかったです。

特に留学生課長時代は、コロナ禍前で留学生の受入れと送り出しの最盛期で、職員も自ら海外に赴き留学プログラムとの交渉するなど非常に多忙でした。しかしながら、英語力が高くない私は実務的な部分では課のメンバーを十分にサポートできず、こんなに長く大学職員として勤めているのに申し訳ない・・・という気持ちで一杯でした。

宮近…私も英語は話せませんので、その辺はつらいです。中山学長が掲げる「世界に冠たる千葉大学へ」を目指すには、管理職も英語を勉強しないとイケないなと思っています。ビジネス英語研修など、英語のスキルを磨く研修体制は整っているので、積極的に活用したいと思っています。

## 部下の成長している姿を見るのは管理職の醍醐味

宮近…成長している姿を見るとときは、やっぱりうれしいですし、若手職員の企画・提案が実現できた時もうれしいですね。みんなの頑張りが評価されることは管理職にとって、非常にうれしいことです。あと、お互いにサポートし合っている姿を見る時ですかね。繁忙期など、声を掛け合っていて互いに協力し合っているところを見ると、うれしいですし、いい職場だなと思っています。

伊藤…それはすごくうれしいですね。忙しい中でもお互いの状況を見ながら協力し合っている姿を見ると、立派だと思っし、うちの大学はこれからも大丈夫!と思います。若手職員でもベテラン職員でも、前向きに一つ一つ課題を解決し進んでいく姿を見て、学ぶことも多く、自分ももっとがんばろう!と思っています。

## 最後に千葉大学の事務職員を目指す方にメッセージをお願いします。

伊藤…千葉大学は学生だけでなく、成長したいすべての方を応援する大学です。その応援マインドは多くの教職員に培われており、総合大学ならではの学びの場もたくさんあります。私は長く千葉大学で働いていますが、いまだに学ぶことがたくさんあるため、飽きることなく新鮮な気持ちを持って勤務しています。自分のペースで成長し続けたい方、また、人の成長に喜びを感じる方にとって、こんなにいい職場はないと断言します。千葉大学と共に成長していきましょう!

宮近…総合大学ならではの、本当に色々な職種の方がいます。教員も様々な分野の方がいますし、附属病院もありますので医療職の方もいます。緑豊かなキャンパスで多種多様な方々と働くことができるのは、大学職員の大きな魅力の一つです。中山学長が掲げた千葉大学のビジョン「世界に冠たる千葉大学へ」を目指すには、まだまだ挑戦すべき課題がたくさんあります。一緒に千葉大学の未来を創っていきましょう!



## 個人の成長が組織の成長に

「つねにより高きものを目指して」

新しい千葉大学を共に創っていきましょう!